



# 自然の力を大事にする活動を通して、見えてきたもの

平成30年11月10日

全Aネット 熊本フォーラム シンポジウム 資料

合同会社ソルファコミュニティ

就労継続支援A型 TEAM VILLAGE 代表 玉城 卓



# ソルファコミュニティ代表 玉城 卓(たまき すぐる)

昭和59年4月1日生まれ 沖縄県宜野湾市出身

高校卒業後は、福岡の福祉大学へ。

はじめは、高齢者介護の仕事に勤め、高齢者デイサービスの介護職、生活相談員、管理者等を経験する。

その後障害福祉の仕事に就いた際、農業と福祉の親和性に気づくことになる。

立ち上げまでに、四つの職場を転々とし、28歳の12月に

「合同会社ソルファコミュニティ」を設立。翌3月に「TEAM VILLAGE」を開所する。

- ・ 就労継続支援A型事業所全国協議会 沖縄窓口事業所
- ・ 農福連携自然栽培パーティー チーム沖縄ブロックリーダー
- ・ 北中城村農業委員会 会長
- ・ 北中城村農地バンク 副頭取
- ・ 県内A型ネットワーク 主宰
- ・ 県内農福連携マルシェ 主宰





# TEAM VILLAGE

TEAM VILLAGE (チーム ヴィレッジ)  
就労継続支援A型事業

平成25年3月1日開所

定員20名 (現在18名)

## 作業内容

- ・ 無農薬、無肥料の自然栽培での農業
  - ・ 農作物の加工
  - ・ 農作物直売所の運営
  - ・ 農作物の仕入れ販売
  - ・ 農業コンサルタント業務
  - ・ 農業に関する企業との連携
  - ・ 草刈請け負い等
- 「農」に関わる仕事を行います。





# ソルファコミュニティ TEAM VILLAGEが 大事にしている事

1. とにかく「**楽しく**」仕事をするこ  
と。

2. 専門性のない「**専門性**」。



3. 現状より、「**一歩**」前にしよう。



# 「農業」と「福祉」の最高のマッチング 「農福連携」とは!?

「農業」は基本的に一人の仕事。今以上のことをしたい、と思っても、常に人手不足に困っている。

「福祉」は人手はたくさんあるが、仕事を求めている。

人手の欲しい「農業」と、仕事が欲しい「福祉」を掛け合わせ、双方の弱みを強みに変えた。

それが「農福連携」です。



# ソルファコミュニティ TEAM VILLAGE が考える「農福連携」とは!?

「農業」も「福祉」も  
どちらも主体となって活動を行い  
「農業」が持つ力を最大限に「福祉」に活かし  
「福祉」が持つ力を最大限に「農業」へ活かし  
またその力を地域の中で、地域活性化や課題解決等  
そこになくってはならない活動、場所、人を育てること。



# TEAM VILLAGEが考える 「農福連携」の素晴らしいところ。

1. 気持ち晴れ、明るくなる。
2. 農作業は細分化できる。
3. 地域の課題を解決することができ
4. 自然栽培で農業をやる価値。
5. 様々な連携を産む。



自然栽培の仲間たち

自然栽培の仲間たち

AEON イオン琉球株式会社



NPO 沖縄の自然栽培野菜を  
給食にするプロジェクト



コープおきなわ



沖縄薬草ワールド  
ハッピーモア市場



きた なか ぐすく  
北中城村  
Kitanakagusuku Village

全Aネッ  
ト

沖縄県商工労働部 OKINAWA CRAFTS PROMOTION CENTER

沖縄県工芸振興センター

一步前に出ること  
でドンドン繋  
がりが増えてき  
た！



Decent Work Labo

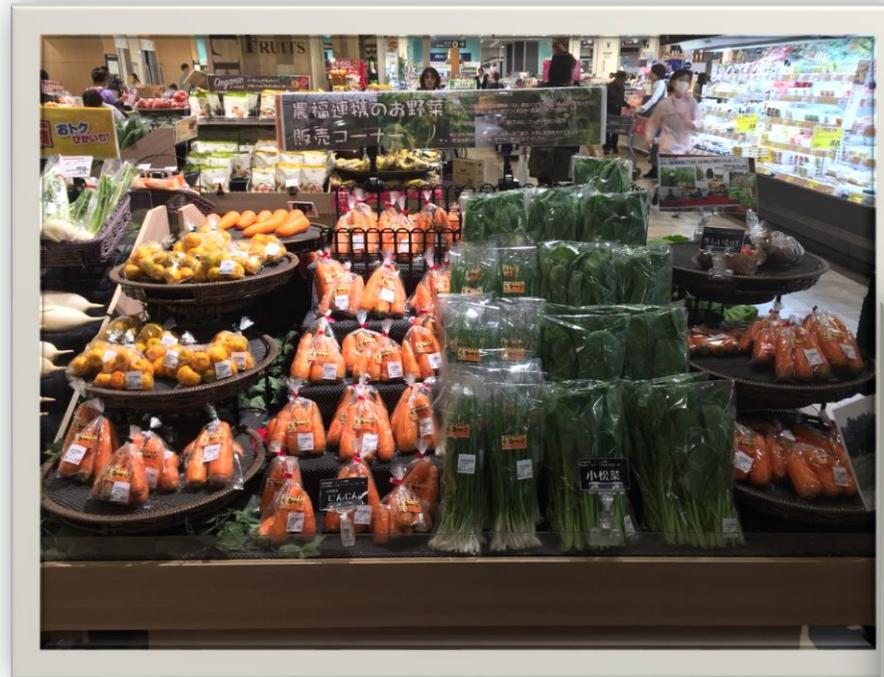
沖Aネッ  
ト



# 1. 販売店との連携

・ 県内農産物販売所でのコーナー販売。

↓ イオンモールライカム農産物売り場内



↓ 宜野湾市  
ハッピーモア市場



※農福連携をキーワードとして、県内外の福祉施設の農産物を仕入れ販売。

## 2. 農家との連携



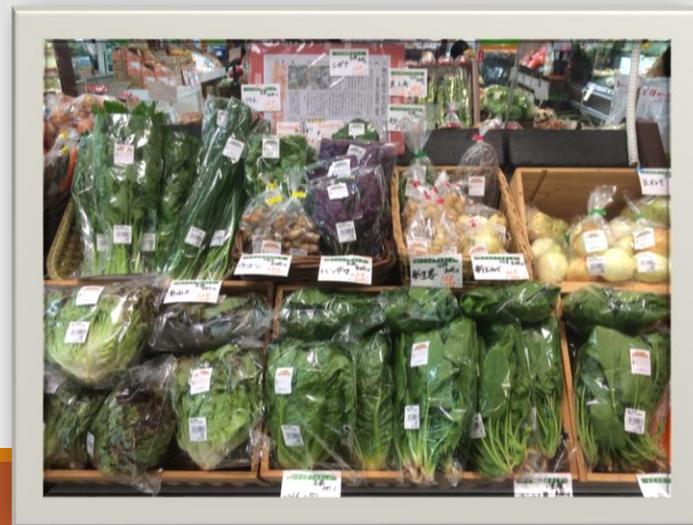
NPO 沖縄の自然栽培野菜を  
給食にするプロジェクト

 **コープおきなわ**

県内コープ2店舗にて  
農家とのNPOとして特  
設コーナーにて販売

農作物の販売や買取な  
ど共働で販売を行って  
いる

勉強会などに  
農家さんに積極的に  
参画して頂いている



# 3. 福祉との連携



自然栽培パーティ  
として全国の農福連  
携福祉施設等と連携

沖縄独自の連携  
として、沖縄農福ラ  
ボの  
設立予定

年に一回は全国フォーラムも開催し、農福連携の  
成果発表の場、広く周知する活動も行っている。  
沖縄県での活動としても、農福連携事業所と沖縄  
マルシェを開催等、連携強化を図っている。



# 4. 行政・地域・企業との連携



県、村、イオンに協力して頂き農福連携マルシェの開催

依頼や協力として企業や民間の畑での作業

観光協会から販売先を紹介

商工会会員として物産展などへの参加





# 5. 教育との連携



グッジョブ運動と連携して、村内小中学校の職場体験、学校での講話

県内中学校、高校などでの講話

東京農大からの実習生受け入れ  
※ 3週間



# 6. スポーツとの連携



サッカークラブ「沖縄sv」と連携して、選手のセカンドキャリア育成のため、共働で農業事業を実施。





サッカーチーム 沖縄svとの連  
携



サッカーチーム 沖縄svとの連  
携

農

福祉

行政

教育

企業

地域

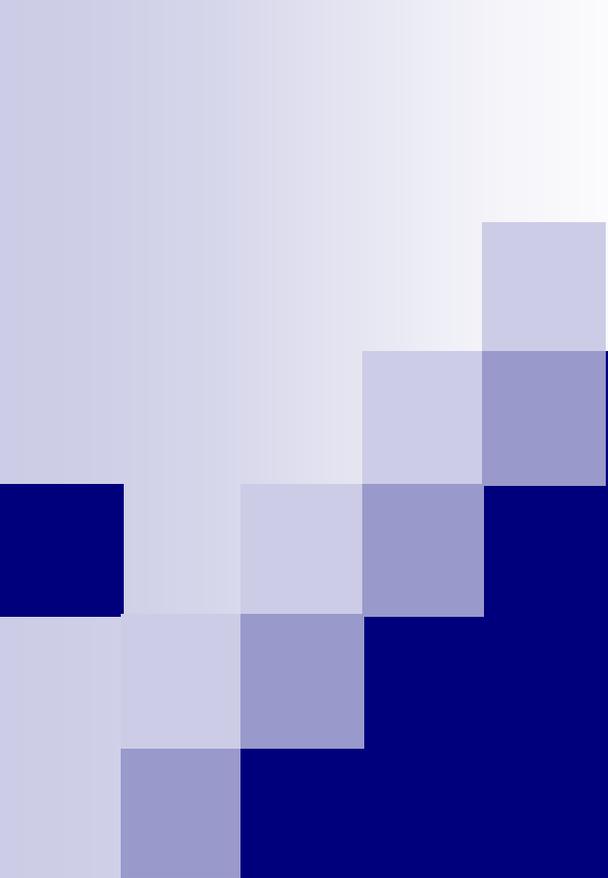
スポーツ



# どんどん広がる 農福連携のフィールドと可能性

- ・ 農業が抱える課題。耕作放棄地の増加、担い手不足の現状。
- ・ 企業の「法定雇用率」、CSR、CSV。
- ・ 2020オリンピック、パラリンピックへの食材提供。
- ・ 食の安全への関心の高まり。
- ・ ・ ・ *and more* ・ ・ ・

「農福連携」は、他職種間との連携がとりやすい。  
農業に真剣に取り組むことで、福祉の活躍の場が生み出され



# これからのA型事業 所の課題について

社会福祉法人東康会  
統括施設長 山田健二

平成30年11月10日

# 法人紹介



社会福祉法人 東康会

平成7年12月設立

運営している事業

ねんりん 就労継続支援A型 40名

らぽーる宇城 就労移行支援 生活訓練 就労継続支援B型 40名

らぽーる八代 就労移行支援 生活訓練 就労継続支援B型 40名

グループホームみすみ 37名

グループホームともに 40名

地域密着型介護老人保健施設 不二の里 29名

# 事業所紹介

就労継続支援A型事業



ねんりん

平成8年4月創業

定員：40名

現員：42名

職員：20名

事業内容：

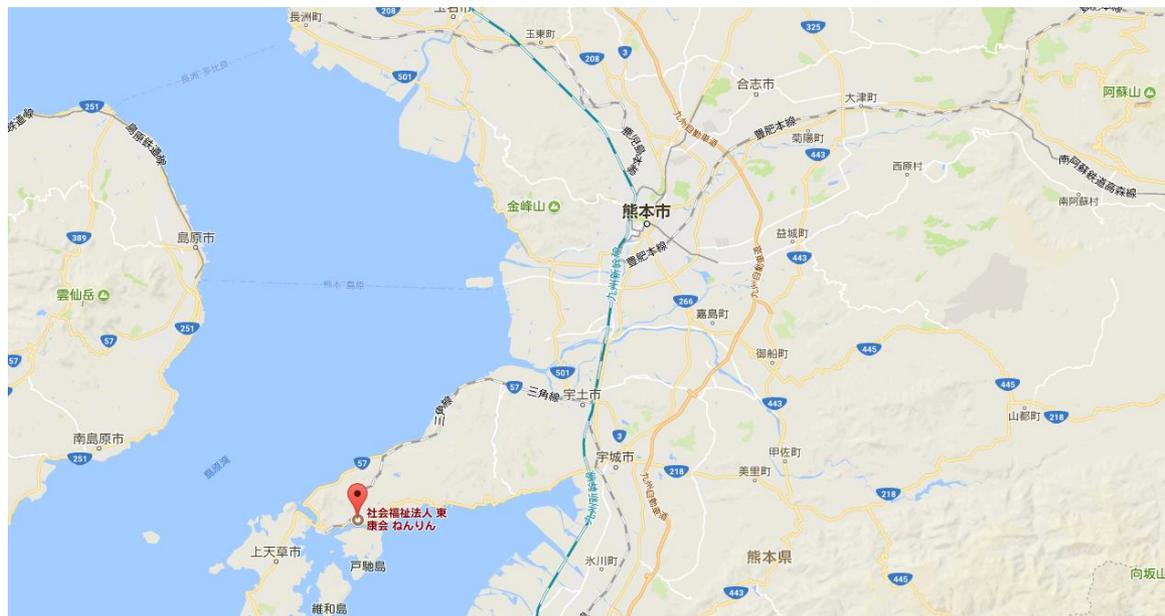
システムキッチンの扉製造 34名

コンクリート2次製品用鉄筋の溶接 8名

# 地域

所在地: 熊本県宇城市三角町

JR三角線 波多浦駅 歩5分  
熊本市から車で約1時間



# 仕事の内容



# 売上額推移

## ・扉製造

H27年度 316,247千円

H28年度 359,556千円

H29年度 359,763千円

## ・鉄筋溶接

H27年度 17,155千円

H28年度 17,631千円

H29年度 20,473千円

# 利用者平均賃金

1人あたり／月

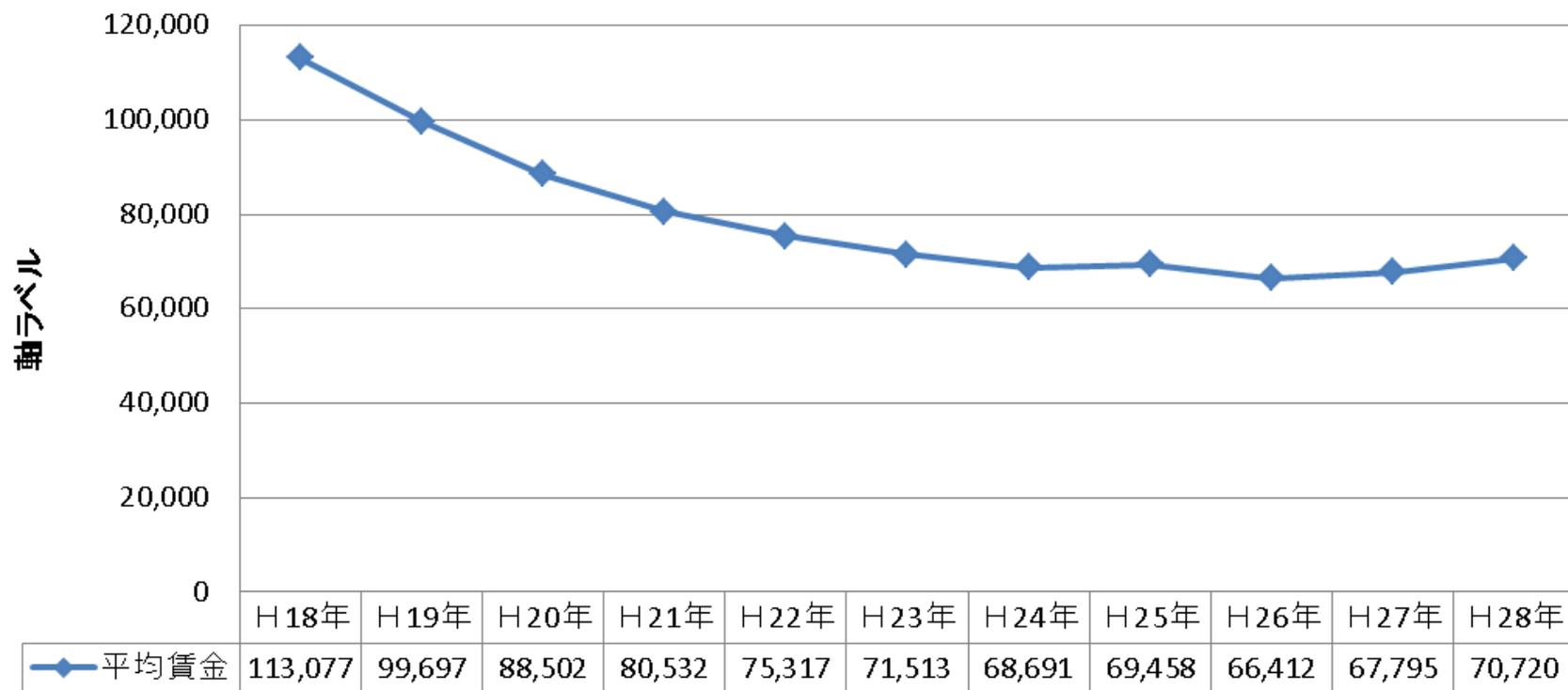
146,498円

1人あたり／時給

769円

平成29年度実績

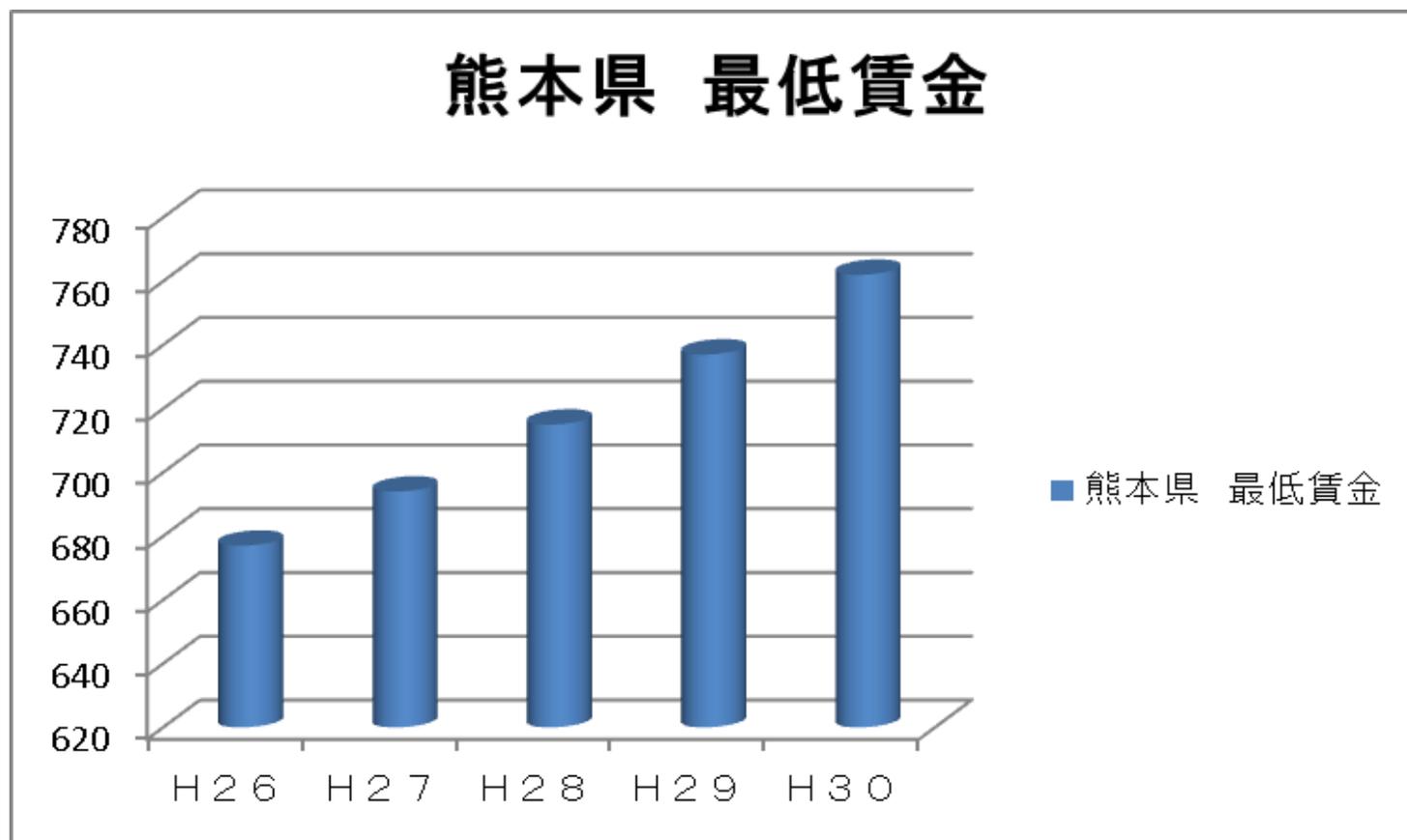
## 就労継続支援A型事業所 平均賃金



### 平均時間額

平成27年度	平成28年度
769円	795円

年 度	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年
熊本県 最低賃金	677円	694円	715円	737円	762円



## 就労継続支援A型事業所の経営改善計画書の提出状況

○全国の就労継続支援A型事業所数 3,831事業所

指定基準についての実態が把握できている事業所数 3,036事業所

経営改善計画を提出する必要がない事業所数 879事業所  
(実態把握済み事業所の29.0%)

経営改善計画を提出する必要がある事業所数 2,157事業所  
(実態把握済み事業所の71.0%)

## 運営主体別・就労継続支援A型における最低賃金減額特例対象者数

○ 就労継続支援A型事業所における雇用契約締結利用者のうち、8.2%が最低賃金減額特例対象者となっている。

	雇用契約締結利用者数(人)	減額特例対象者数(人)	減額特例対象者の割合(%)
社会福祉法人	6,819	1,429	20.9%
営利法人	18,795	699	3.7%
特定非営利活動法人	6,294	538	8.5%
その他	4,298	317	7.3%
合計	36,206	2,983	8.2%

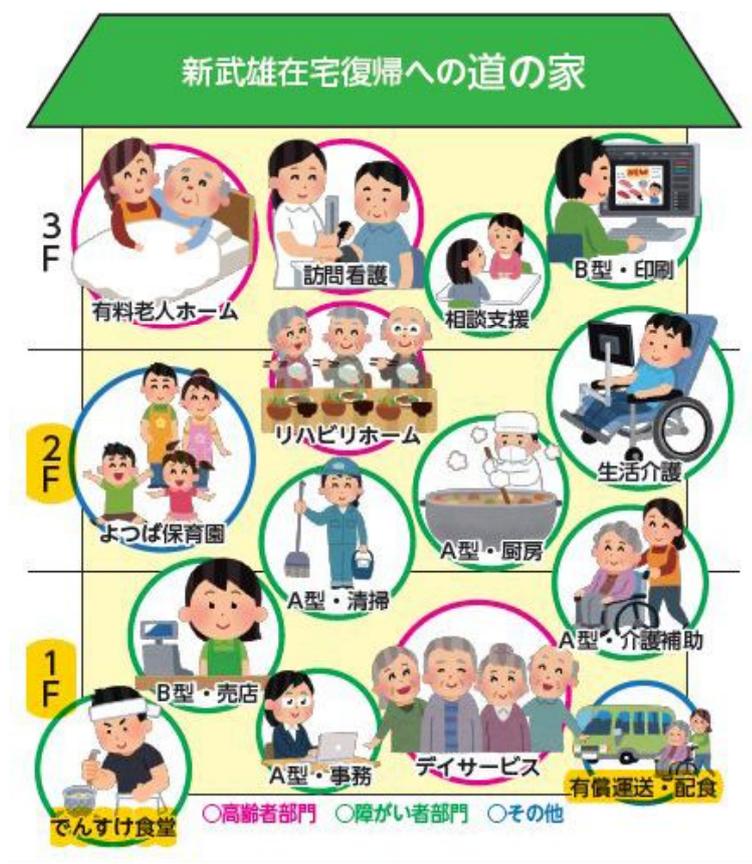
# 今後懸念されるA型事業の課題

- 最低賃金の急上昇への対応
- 消費税アップへの対応
- 経営改善計画の未達成事業所の増加
- 減額特例の増加
- 上記の理由によるA型事業所への世間の目

## 事業所レポート 地域ニーズの応え続けた結果、複合的な施設に

特定非営利活動法人ゆとり 新武雄在宅復帰への道の家（通称）道の家

「高齢者」・「障がい者」・「若者」と多世代にわたって、また「地域住民」も含めお互いが支え合う地域の『家』として運営されています。



左の図をご覧ください。

この家には（リハビリや看護、福祉などが必要な）高齢者が住んでいます。そこには介護、給食、清掃、シーツ交換といった身の回りの仕事をしてくれる人が必要です。その仕事を障がいのある人が一部担うことで、彼らも自立した生活をしています。

ここは「高齢者」「障がい者」「若者」「地域住民」が互いに支えあう地域の『家』として運営されています。図にはありませんが障がい者・高齢者ショートステイも実施され、2017年4月からは認可保育園も開所し、一層地域ニーズに応える取り組みが進んでいます。

（通称）道の家の作業療法士である坂本暁彦さんにレポートしていただきました。

### ◇特定非営利活動法人ゆとり 新武雄在宅復帰への道の家とは

作業療法士 坂本 暁彦

特定非営利活動法人ゆとりは佐賀県武雄市にあり、旧市民病院の跡地と建物を利用して高齢者と障がい者の支援事業を行っております。

高齢者支援事業として有料老人ホームや宅老所の入居施設とデイサービス、訪問看護等の介護保険サービス、障がい者支援事業として宅老所・寄宿舎を



利用した入居や生活介護、ショートステイ、就労継続支援 A 型・B 型、そして保育園の運営をしている施設です。

特徴としては入居されている方の食事の提供やシーツ交換、洗濯といった高齢者の身の回りのお手伝いを就労支援の仕事として行っており、その対価としての給料で障がい者は生活していけるというように高齢者と障がい者がお互い支え合いながら生活を送っているところです。

### ◇宅老所とは？

佐賀県独自の取り組みとして「宅老所」という入居サービスも当施設では行っております。

この「宅老所」は民間の独自な発想でサービス提供が行われ、具体的にどのようなサービスを提供するかはそれぞれの「宅老所」によって異なりますが「泊まる」といったサービスが基本とされています。

利用者は、高齢者に限らず、障がい者も対象としており、当施設でも高齢者だけでなく障がいを持たれた方の受け入れも行っており既存のサービスや制度の範囲では手の届かない方にもできる限りの対応を行っております。

佐賀県HPより（佐賀県独自の制度）  
地域共生ステーション（宅老所・ぬくもいホーム）推進事業

年齢や障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れた地域の中で安心して生活していくことができるよう、様々な福祉サービスを提供できる場の整備費用が補助される。

### ◇障がい者支援の紹介

#### 生活介護

日中の活動や生活支援が中心です。同時に家族との関わりにも力を入れており家族を招待してのバーベキューやそうめん流しなど積極的にイベントの企画も行っております。若くして脳卒中を呈された方も数名利用されておりリハビリ職の介入により、生活介護から就労支援へ移行していく取り組みも行っております。

#### リハビリの介入（生活介護～就労への移行）

脳卒中後の生活訓練等として日常生活動作の指導から開始し、身の回りの動作の自立を目指します。その後の就労に向けての就労訓練等のプランを本人と面談をしながら進めていきます。就労訓練中も身体の不具合に対応して必要なリハビリ（身体のケア・装具の相談）の出来るプランの提案などを行います。

#### 例）脳卒中発症

⇒ 病院でのリハビリ ⇒ 生活介護での生活訓練／就労準備 ⇒ 就労移行支援と生活介護や高齢者デイサービスでのリハビリの併用 ⇒ 一般就職を目指す。

#### ショートステイ

生活介護や就労支援利用者の外泊訓練や家族のレスパイト目的が主な利用ですが県外からの旅行の宿泊目的で利用されることもあります。

#### 就労継続支援

知的障害、精神障害、身体障害を持たれた方が介護補助、厨房、清掃、事務、印刷等の仕事を行っております。厨房では館内の食事提供だけでなく地域の施設での委託給食事業やでんすけ食堂

といった地域ちゃんぽん屋の事業も行っております。

介護補助では、当施設内で介護職員と協働して業務にあたることで力をつけ利用者2名が介護職員として一般就職しています。

### エピソード（復職事例）

#### でんすけ食堂 Kさんのケース

脳幹梗塞で右半身に麻痺が生じたKさん。自営業で続けたちゃんぽん屋の30周年を目前に、営業を中断せざるをえませんでした。回復期病院で半年間の機能訓練を受けた後、「復職リハセンター 一道の家」を利用。厨房部門において、配膳下膳から始め、調理業務まで取り組み、約一年間で身体的・精神的な能力の向上とともに、仕事の習熟まで獲得し、復職が可能となりました。発症から1年9か月後、念願であったチャンポン屋を就労継続支援A型としてリニューアルして再開、再び店長として現場復帰。今では、変わらぬ老舗の味のチャンポンを、多くのお客様に笑顔でお届けする毎日です。



上) 就労継続支援A型としてリニューアルされたでんすけ食堂のスタッフの皆さん



地域から愛されるでんすけ食堂のチャンポン

右) 脳梗塞発症から1年9か月後にでんすけ食堂を再開したKさん



リハビリスタッフ集合写真  
後列右から2人目が執筆者の坂本暁彦作業療法士



就労の利用者とお祭りの告知でサガテレビに出演